

## EMLG/JMLG Annual Meeting 2006 報告

JMLG secretary

鳥居 肇 (静岡大教育)

2006年のEMLG/JMLG Annual Meetingは、“Liquid Systems under Extreme Conditions”のテーマで、スペイン国バルセロナ市のUniversitat Polytècnica de Catalunya (UPC)にて開催された。会議のチェアパーソンはElvira Guàrdia教授 (UPC)が務められた。会議は2006年9月3日(日)夕方のレセプションから7日(水)正午過ぎまでであり、約100名が参加した。日本からの参加者は9名(寺嶋正秀, 伊吹和泰, 木村佳文, 鳥居肇, 佐藤啓文, 六車千鶴, 吉田亨次, 藤沢知績, 横川大輔; 以上敬称略)であった。なお、国別の参加者数は、開催国スペイン(20名)を筆頭に、フランス, イタリア, ドイツ(各12名), 日本, ハンガリー(各9名)と続く。なお、米国, アルゼンチンから各2名, トルコから1名の参加者もあった。

会議プログラムは、11件の招待講演(45分)と19件の一般口頭発表(25分), 6件の若手口頭発表(15分), および53件のポスター発表で構成された。招待講演の講演者とタイトルは、以下の通りである(講演順)。

**Sergei G. Kazarian** (Imperial College London), “Supercritical enhanced processing of polymeric materials”

**Daniel Laria** (Universidad de Buenos Aires), “Protons in supercritical water: A multistate empirical valence bond study”

**Juan Colmenero** (Universidad del País Vasco, Spain), “Dynamic of glass-forming polymers in the  $\alpha$ - $\beta$  region. Molecular dynamics simulations and quasielastic neutron scattering results”

**Thierry Tassaing** (Université Bordeaux I), “Hydrogen bonding in liquid and supercritical fluids investigated by vibrational spectroscopy”

**Christiane Alba-Simionesco** (Université de Paris-Sud), “Disentangling density and temperature effects in the viscous slowing down of glassforming liquids and polymers”

**Pál Jedlovsky** (ELTE University, Hungary), “Orientational ordering of the molecules at liquid-liquid and liquid-vapor interfaces”

**Geraldine Richmond** (University of Oregon, USA), “Molecular adsorption, ion solvation and hydrogen bonding at aqueous surfaces”

**Hirofumi Sato** (Kyoto University), “Structure and chemical reaction under extreme conditions”

**Gerhard H. Findenegg** (Technische Universität Berlin), “Fluids in narrow pores: From simple to complex liquids”

**Lourdes F. Vega** (Institut de Ciència de Materials de Barcelona), “Ionic liquids and supercritical fluids as alternative solvents: A molecular modeling approach”

**Masahide Terazima** (Kyoto University), “Time resolved detection of intermolecular interactions in solution”

このほかに,

**Peter Rossky** (University of Texas at Austin), “Interfacial solvation by supercritical CO<sub>2</sub>: Understanding CO<sub>2</sub>-philic surfactants”

が予定されていたが、キャンセルされた。

ポスターセッションは4日の夕方(16:30-18:30)に行われた。件数が多かったためなのか、部屋や階段の壁面も、ポスターボードの代わりとして利用された。空間が十分ではなかったが、そのぶん熱心な議論があちこちで見られたと思う。

6件の若手口頭発表(15分)は、6日の午後に行われた。日本からは、藤沢知績氏(京大)が講演された。この企画は、昨年は行われず、運営会議において次年度の復活が要望されたものであった。

このほか、5日夕方には運営会議が、6日夕方には総会が行われた。双方において、JMLG secretary から、来年度福岡で開催される会議の説明がなされた。

若手研究者(大学院生・ポスドク)の優秀なポスター発表に対して、例年と同様にポスター賞が贈られた。今回は以下のように、1位1件と2位2件が選ばれた。受賞者には、賞状のほか、副賞として200 Euro(1位)または150 Euro(2位)、および3年間のEMLG/JMLG会費無料の特典が贈呈された。

1位: Ms. Susanne Jähnert, Technische Universität Berlin, "Pore freezing of water and heavy water in MCM-41 and SBA-15 silica materials"

2位: Mr. Aurelio Olivet, Institut de Ciència de Materials de Barcelona, "An optimized force field for sulphur hexafluoride simulations"

および Mr. Shuang-Liang Zhao, Ecole Normal Supérieure de Lyon, "Fluids adsorbed in random porous media: A new model of templated matrices"

#### 来年以降の会議について

5日夕方の運営会議と6日夕方の総会において、来年以降の会議の開催地とテーマ等が議論された。

[2007年]

11月22日から25日の会期で、福岡大学において、Molecular approaches to complex liquid systemsをテーマに開催される。この会議は、第30回溶液化学シンポジウムとの併催という形で行われる。チェアマンは山口敏男教授と平田文男教授が務められる。会議の前の11月20日には、横浜市でpre symposium(世話人:横山晴彦教授,菅野等教授,山中弘次教授)が、会議の後の11月26日には、京都市でpost symposium(世話人:寺嶋正秀教授)が予定されている。欧州から出席する若手研究者(学生および若手ポスドク)に対して、EMLGが援助を行うことになっており、援助を受ける3名(667 Euroずつ)は、既に決定されている。

[2008年]

9月1日から5日の会期で、Lisbon (Portugal)において、Fundamental understanding of supercritical fluids at the molecular levelをテーマに開催される。チェアパーソンはM. Isabel Cabaço教授が務められる。

[2009年]

9月上旬(予定)に、Salzburg (Austria) またはその近郊において開催される。チェアマンはMaurizio Musso教授が務められる。

[2010年]

運営会議において、Gábor Pálinkás教授から、実験研究の発表を主体としてハンガリーで開催することを検討する旨、発言があった。

#### その他

- EMLGのchairmanの任期が、来年到来する。International Advisory CommitteeからはRichard Buchner教授(Regensburg)を推挙することとなったが、その他の推薦も受け付けられる。選挙は来年秋に、電子的に行われる予定である。